

②都市構造

都市構造は、土地利用方針に基づき、都市空間の骨格・諸条件を踏まえて、どのような都市づくりを進めるのかの方向性を示すものです。

都市構造		市の方針
都市の骨格	都市軸	本市の2大拠点である大和八木駅周辺から橿原神宮前駅周辺までは、公共・公益施設の集積する地域であるとともに、近接する歴史文化遺産も存在し、2大拠点と一体的に都市の中心軸としてふさわしい整備を進め、魅力的な空間の形成を図ります。
	広域幹線道路	高速道路、国道等の広域幹線道路や都市計画道路等の整備を進め、都市活動を支える利便性と快適性を備えた道路ネットワークの形成を図ります。
	鉄道	近鉄線及びJR線は、人が移動するための主要な交通手段であり、結節機能の向上を図るとともに駅周辺地区の連続的な歩行空間の確保、駐車場・駐輪場の整備、バリアフリー化などを推進します。
	河川	市内を流れる河川については、散策や回遊ができるサイクリング道路、歩行者専用道路の整備など、水と緑のうるおいのある環境の形成を図ります。
	古道	下ツ道、横大路、阿倍山田道などの古道は、生きる文化財であり、市民が生活の中に歴史の息づかいと伝統を感じることでできる環境づくりを図ります。
都市の中心	広域・商業業務拠点	大和八木駅、八木西口駅及び畝傍駅を一体とした地区(中心核)と橿原神宮前駅周辺地区(サブ核)は、高次の商業業務や各種サービス機能を担う拠点として、基盤整備と連動した土地の高度利用を推進し、既存の商業・サービス機能の再編・活性化と賑わいと交流あふれる広域拠点づくりを図ります。
都市の資源	歴史文化資源	今井町や八木札の辻地区、藤原宮跡、橿原神宮、本薬師寺跡、新沢千塚古墳群、丸山古墳等は、景観の維持・保全に努め、市民が地域の歴史文化を感じることでできる空間として整備を進めます。
	緑資源	大和三山及び貝吹山は、自然に親しみ、歴史文化遺産にふれることでできる市民の憩いの場として活用を図り、緑の保全に努めます。
大和三山景観エリア		本市の象徴的な景観を形づくっている大和三山とその中心に位置する藤原宮跡、今井町及び甘樫丘に囲まれた地域については、歴史的景観の保全と活用を図り、さらに良好な眺望景観の確保に配慮した土地利用を進めます。

都市構造図

